

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
			9・開隆堂	第1学年 第2・3学年	美術・009-72 美術・009-82
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等		<p>○ 絵や彫刻については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～身近な人の姿や自分の大切にしているものを観察して絵を描いたり、材料の形や色彩、質感などの特徴を生かして表したりする活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する活動</p> <p>第2・3学年～墨の濃淡や筆遣いによって、空間の広がりや奥行きのある絵を描いたり、さまざまな出来事や心に残る情景を立体的に表したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する活動</p> <p>○ デザインや工芸については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～身のまわりにある形や色彩から模様を考えたり、木の特徴を生かした使いやすい工芸品をつくったりする活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する活動</p> <p>第2・3学年～世界観や魅力を伝えるためのイラストレーションのデザインを考えたり、使う人々が心地よく過ごせる空間のデザインを工夫したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する活動</p> <p>○ 鑑賞については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～作品を見て、それを味わい、自分で感じたことから作者の意図や自分なりの解釈について話し合う活動を通して、表現の工夫や美術作品についての基礎的な理解や見方を広げたり、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わったりする活動</p> <p>第2・3学年～図屏風や水墨画のよさや美しさについて話し合う活動を通して、たくさんの芸術家の作品に影響を与えた美術文化についての理解や見方を深めたり、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わったりする活動</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～「イメージを伝える形」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、ロゴタイプの形や色彩について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第2・3学年～「イメージを形にして」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、自分の思いや材料などを基に表現方法について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動</p>			
内容の構成・		<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1学年～「ずっと木といっしょに」の題材において、木目を生かして、握りやすいナイフを紹介し、家庭科との関連する写真等で示すなど、教科等横断的に学習することができるよう</p>			

<p>排列, 分量等</p>	<p>な工夫 第2・3学年～「文化を守り、育む」の題材において、捨てずに資源として再利用する南部裂織を紹介し、社会科との関連を写真等で示すなど、教科等横断的に学習することができるような工夫</p> <p>○内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～絵や彫刻は18ページ、デザインや工芸は18ページ、鑑賞は11ページ、その他は25ページであり、総ページ数は72ページで、前回より約9%増となっている。 第2・3学年～絵や彫刻は32ページ、デザインや工芸は28ページ、鑑賞は25ページ、その他は43ページであり、総ページ数は128ページで、前回より約5%増となっている。</p>
<p>使用上の 配慮等</p>	<p>○ 巻末で、「学びの資料」（全学年）として、表現活動や制作する中で必要となる知識や技法などを紹介したり、「持続可能な未来へ（第2・3学年）」では、ウポポイを紹介したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 全学年の題材の冒頭で、生徒に身に付けさせたい力をマークや囲みで示したり、全学年の題材の随所で、学習のポイントを示したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 全ての生徒が学習しやすいよう、各題材の内容ごとに色で示したり、用具の安全な使い方や配慮すべき内容についてマークを示したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の 配慮等</p>	<p>○ 地域素材については、デザイン領域の題材「イメージを伝える形」の中で、札幌市徽章のマークが、題材「目にとまる 心にとまる」の中で、小樽市の風景を利用したポスターが取り扱われるとともに、「学びの資料」の中で、札幌芸術の森美術館に所蔵している彫刻作品とアイヌ文化が学べる国立アイヌ民族博物館と体験型の国立民族共生公園ウポポイが取り扱われている。</p> <p>○ ICTの活用については、1人1台端末を活用した学習活動として、各題材に二次元コードが掲載され、インターネットを通して、様々なコンテンツを利用できるようになっており、題材の導入で「はじめに」の動画が設定され、題材の内容を確認し、生徒が興味・関心をもって学習活動に取り組めるよう工夫がなされている。また、教科書に掲載された作品以外の参考作品の紹介、ワークシート等を掲載するなど、授業と連動して活用できるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携による指導については、美術1の巻頭に「図画工作から美術へ」の三つ折り4ページ構成の中で、美術の学習の全体構成を俯瞰し、見直しをもって視覚的に捉えることができるよう構成に配慮がなされている。また、図画工作での学びや美術の学習を、児童・生徒の様子と合わせて示し、美術の学習を4領域「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「鑑賞」「社会とつながる、文化を生み出す」で紹介する配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<p>○ 絵に表現する活動において、形や色、光や影などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解して表現する力を育むことができるよう、巻末「学びの資料」の中で、「色彩と光」と「用具を知って使ってみよう」に、基本的な色彩や光の特色を説明したり、具体的な技法の例を示したりするなど、生徒の表現を支える工夫がなされている。</p> <p>○ 目的や条件などを基に、強く感じたことや表したいことを考え、豊かに発想する力を育むことができるよう、各題材に「発想・構想」の小見出し</p>

	<p>が掲載されており、アイデアスケッチや生徒の活動写真、生徒作品例などを通して、何を、何のために、どのように表すのかを考え、主題を生み出す力を身に付ける活動を提案する工夫がなされている。また、各題材にキャラクターの吹き出しで、生徒の視点からの気づきや思考のヒントが掲載され、豊かな発想につながるよう配慮がなされている。</p> <p>○ 鑑賞において、作者の心情や表現の意図などについて考え、見方や感じ方を広げたり深めたりする力を育むことができるよう、鑑賞中心の題材において、「鑑賞」の小見出しと鑑賞のポイントを示す問いかけが関連するよう示されており、生徒同士が対話を通して、新たな気づきやイメージを広げることができるよう工夫がなされている。また、原寸での作品掲載や、小さい図版では気づきにくい細かい表現まで見取ることができるよう配慮がなされている。</p>
その他	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		38・光村	第1学年 第2・3学年	美術・038-72 美術・038-73 美術・038-82	美術1 美術1資料 美術2・3
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 絵や彫刻については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～身近な人のもつ雰囲気や、表情やしぐさから捉えて絵を描いたり、自然物の美しさや特徴などを形や色彩、質感などから捉えたりする活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する活動</p> <p>第2・3学年～目の錯覚を利用して形や色彩のトリックを使った絵を描いたり、空想の世界の動物を立体に表したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する活動</p> <p>○ デザインや工芸については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～形や色彩が見る人に与える効果を理解してロゴマークのデザインを考えたり、使いやすさや装飾の美しさを考えて焼き物をつくったりする活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する活動</p> <p>第2・3学年～地域の魅力を表すパッケージのデザインを考えたり、人々が利用しやすい公共施設のデザインを工夫したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する活動</p> <p>○ 鑑賞については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～版画の線や面、色の重なりなど表現のよさや特徴について話し合う活動を通して、版画と絵の表現の違いや美術作品についての基礎的な理解や見方を広げたり、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わったりする活動</p> <p>第2・3学年～浮世絵の大胆な構図と明快な色彩など、日本の美術と西洋の美術に与えた影響について話し合う活動を通して、我が国の伝統的な美術作品についての理解や見方を深めたり、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わったりする活動</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～「心ひかれるこの風景」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、身の回りの風景を描いた作者の思いや表現の工夫について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第2・3学年～「あかりがつくる空間」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、様々な光を与える印象や効果について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動</p>			
内容の構成・		<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1学年～「暮らしをいろどる文様」の題材において、エッセイの敷き詰め模様を紹介し、数学科との関連をコラム等で示すなど、教科等横断的に学習することができるような工夫</p>			

<p>排列，分量等</p>	<p>第2・3学年～「メッセージを伝える」の題材において，ポスターなどの広告に入るコピーを紹介し，国語科との関連をコラム等で示すなど，教科等横断的に学習することができるような工夫</p> <p>○内容の分量については，次のようになっている。 第1学年～絵や彫刻は22ページ，デザインや工芸は14ページ，鑑賞は18ページ，その他は14ページであり，総ページ数は68ページで，前回より約15%減となっている。 第2・3学年～絵や彫刻は22ページ，デザインや工芸は16ページ，鑑賞は48ページ，その他は20ページであり，総ページ数は106ページで，前回より約2%増となっている。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 巻末で，「学習を支える資料」（全学年）として，美術作品の鑑賞方法などを紹介したり，「北と南の民族衣装」（第2・3学年）では，アイヌ民族の伝統的な衣装を紹介したりするなど，生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 全学年の題材の冒頭で，生徒に身に付けさせたい力をマークや囲みで示したり（全学年），題材の随所で，学習のポイントを示したりするなど，主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 全ての生徒が学習しやすいよう，各題材の内容ごとに色で示したり，用具の安全な使い方や配慮すべき内容についてマークを示したりするとともに，1人1台端末を活用した学習活動として，二次元コードを掲載するなど，使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の配慮等</p>	<p>○ 地域素材については，デザイン・工芸領域の題材「暮らしをいろいろの文様」の中で，旭川市博物館が所蔵しているアイヌ民族の衣装の文様や，題材「木と親しむ暮らし」の中で，旭川家具の職人が製作した「君の椅子」プロジェクトの木工作品が取り扱われているとともに，北海道立近代美術館の所蔵，北海道出身の片岡球子の「山（富士山）」や，札幌市の大通公園に設置されている彫刻作品が誌面に大きく掲載されている。</p> <p>○ ICTの活用については，1人1台端末を活用した学習活動として，解説動画や生徒が端末に書き込むことができるツールなど，多様なコンテンツで体感的に鑑賞を深めることができるよう工夫がなされている。また，全国の多様な生徒作品を多数紹介したり，作品を制作した生徒のインタビューを取り入れたりするなど，学習意欲を高める内容や表現を支える技法動画が充実するよう工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携による指導については，美術1の巻頭「うつくしい！」の詩から新たな学びへの期待感を高め，「美術の扉を開こう」の中で，図画工作と美術のつながりを明らかにし，生徒の様子や作品から学習の見通しをもたせる配慮がなされている。また，「教科書を活用しよう」の中で，教師・生徒のキャラクターが，教科書の使い方を丁寧に解説するなど，知的好奇心を引き出す工夫がなされている。</p>
<p>本市生徒の学習の状況等</p>	<p>○ 絵に表現する活動において，形や色，光や影などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解して表現する力を育むことができるよう，教科書とは別に，3年間使用できる「別冊資料」が用意されており，「描く」「形・色・光」「色」などの項目ごとに必要な技法等を紹介するとともに，二次元コードに多数の具体的な技法動画が用意されており，様々な技法の仕組みを体感して学ぶことができる工夫がなされている。</p> <p>○ 目的や条件などを基に，強く感じたことや表したいことを考え，豊かに発想する力を育むことができるよう，全ての表現題材に，作品の発想を広げ，構想を練るための具体的な手立てが掲載されているとともに，「みんな</p>

	<p>なの工夫」を位置付け，生徒が試行錯誤しながら制作に取り組む様子を丁寧で紹介するほか，作品を制作した生徒のインタビュー動画を視聴することができる二次元コードが掲載され，誌面では伝えられない作者の思いや工夫点などを知ることができる配慮がなされている。</p> <p>○ 鑑賞において，作者の心情や表現の意図などについて考え，見方や感じ方を広げたり深めたりする力を育むことができるよう，作品の鑑賞を深めるために，形や色彩，材料などの〔共通事項〕を意識できる問いかけが，吹き出しで示されているとともに，「鑑賞を広げる言葉集」が掲載されており，言葉を知ることによって鑑賞を豊かにすることができる配慮がなされている。また，大開きのページの設定や和紙のような風合いのある用紙の使用など，本物に近い感覚で鑑賞できるよう図版の工夫がなされている。</p>
その他	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		116・日文	第1学年 第2・3学年	美術・116-72 美術・116-83 美術・116-84	美術1 美術との出会い 美術2・3上 学びの実感と深まり 美術2・3下 学びの探求と未来
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等		<p>○ 絵や彫刻については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～身近にあるものや愛着のあるものをよく見て絵を描いたり、木の枝や石、廃材などの形や色彩、質感を生かして表したりする活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する活動</p> <p>第2・3学年～視点の違いや構図を工夫して印象の変化を生かして絵を描いたり、動物の特徴やイメージを立体に表したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する活動</p> <p>○ デザインや工芸については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～自然物や人工物の特徴から模様を考えたり、木の質感や特性、形や色彩に着目し、使う場面を考えて道具をつくったりする活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する活動</p> <p>第2・3学年～布の質感や染色の技法を生かしたデザインを考えたり、過ごす人の思いなどを考えて環境のデザインを工夫したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する活動</p> <p>○ 鑑賞については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～原始美術の造形的なよさや意図について話し合う活動を通して、当時の人々の願いや作者の意図や美術作品についての基礎的な理解や見方を広げたり、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わったりする活動</p> <p>第2・3学年～現代美術の美しさや面白さについて話し合う活動を通して、作者の意図と創造的な工夫などについての理解や見方を深めたり、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わったりする活動</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～「材料に命を吹き込む」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、身の回りの材料などの形や色彩の特徴について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第2・3学年～「魅力を伝えるパッケージ」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、中身のイメージを基に美しさや伝達の効果について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動</p>			
内容の構成・排列、		<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1学年～「自然の美しさから生まれた」の題材において、建築や芸術作品に生かされている黄金比を紹介し、数学科との関連を写真等で示すなど、教科等横断的に学習することができるような工夫</p>			

分量等	<p>第2・3学年～「どこまで修復すべきか」の題材において、美術文化の継承の意義や方法などを紹介し、道德との関連を写真等で示すなど、教科等横断的に学習することができるような工夫</p> <p>○内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>第1学年～絵や彫刻は16ページ、デザインや工芸は16ページ、鑑賞は14ページ、その他は28ページであり、総ページ数は74ページで、前回とほぼ同様となっている。</p> <p>第2・3学年(上)～絵や彫刻は12ページ、デザインや工芸は16ページ、鑑賞は13ページ、その他は23ページであり、総ページ数は64ページで、前回とほぼ同様となっている。</p> <p>第2・3学年(下)～絵や彫刻は15ページ、デザインや工芸は10ページ、鑑賞は14ページ、その他は21ページであり、総ページ数は60ページで、前回とほぼ同様となっている。</p>
使用上の配慮等	<p>○ 巻末で、「学びを支える資料」（全学年）として、技能の習得や題材に関連した鑑賞資料などを紹介したり、「暮らしに息づくパブリックアート」（第2，3学年）では、道内の屋外彫刻を紹介したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 全学年の題材の冒頭で、生徒に身に付けさせたい力をマークや囲みで示したり、全学年の題材の随所で、造形的な視点を示したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 全ての生徒が学習しやすいよう、各題材の内容ごとに色で示したり、用具の安全な使い方や配慮すべき内容についてマークを示したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>
指導上の配慮等	<p>○ 地域素材については、絵や彫刻領域の題材「日本文化との出会い」の中で、北海道立近代美術館に所蔵されている「鯉文花器」が、デザイン・工芸領域の題材「文字が生み出すイメージ」の中で、北海道の地域を象徴する文字を扱ったロゴマークが取り扱われているとともに、巻末の「学びを支える資料」には、パブリックアートとして札幌市のモエレ沼公園や旭川市の買物公園に設置されている「手」の野外彫刻が紹介されている。</p> <p>○ ICTの活用については、1人1台端末を活用した学習活動として、全題材で題材導入動画「学びのはじめに」が掲載されているとともに、情報機器活用のヒントを示したICTマークを位置付けるなどの工夫がなされている。また、鑑賞を深める動画や著名人や作家のインタビュー動画が多数用意され、生徒の興味や関心を高めるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携による指導については、美術1の「ようこそ美術の学びへ」の見開き2ページ構成の中で、図画工作での経験や学びで身に付けたことを、美術でも活用していくよう示されているとともに、中学校3年間の学びを、二つの学習活動「表現」と「鑑賞」、二つの分野「絵や彫刻など」と「デザインや工芸など」を示し、児童生徒が制作している様子や作品で見通すことができる配慮がなされている。</p>
本市生徒の学習の状況等	<p>○ 絵に表現する活動において、形や色、光や影などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解して表現する力を育むことができるよう、各巻末の「学びを支える資料」の中で、色彩の基本や仕組み、様々な技法が取り上げられているとともに、学びを深める動画や技法が紹介されている二次元コードが掲載され、主体的な活動を促す工夫がなされている。</p> <p>○ 目的や条件などを基に、強く感じたことや表したいことを考え、豊かに発想する力を育むことができるよう、全ての表現題材で、発想・構想の手掛かりとなる「表現のヒント」や、発想を引き出し、構想を深める手掛か</p>

	<p>りとなるアイデアスケッチを多数掲載するなどの工夫がなされている。また、アーティストの制作過程や、中学生の造形活動に活用できる手立てを紹介するなど、生徒一人一人の表現の幅が広がるよう配慮がなされている。さらに、全国の中学生が身の回りで見つけて撮影した「私の見つけた美」を掲載して、発想・構想を深める工夫がなされている。</p> <p>○ 鑑賞において、作者の心情や表現の意図などについて考え、見方や感じ方を広げたり深めたりする力を育むことができるよう、何に着目してどう考えればよいのかという「見方・考え方」に気付かせるため、「鑑賞の入り口」と「造形的な視点」を示し、鑑賞と表現を関連させながら掲載作品の鑑賞ができるよう工夫がなされている。また、両観音開きのページを設定し、実際に折って立てて鑑賞できる屏風作品や実際の大きさを体感することができる原寸大図版など、実感的理解を生み出す工夫がなされている。</p>
その他	